

OZU TOWN

第7次大津町振興総合計画

第3期大津町 まち・ひと・しごと 創生総合戦略



第1章 第3期大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

① 大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目的

周辺地域への先端半導体企業の進出やそれに伴う本町への関連企業の進出、阿蘇くまもと空港アクセス鉄道計画の肥後大津ルート決定等の町を取り巻く情勢の変化により当面は人口の増加傾向が続くことが見込まれる一方で、令和27年度(2045年度)以降は減少傾向に転換することも見込まれています。そうした中で、まち・ひと・しごと創生に向けた取組を強力に推進することによって、令和27年度(2045年度)以降の人口減少のペースを緩和するとともに、人口減少が進行する中においても、いつまでも住み続けることのできる大津町を実現し、未来へと引き継いでいかなければなりません。

そのため、これまでの「第1期大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「第2期大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく取組の検証も踏まえつつ、「第3期大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」として、町民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができるまちの実現、まちの未来を担う個性豊かで多様なひとの確保、魅力ある多様なしごとの創出の3つの考え方のもと、今後本町が目指すべき目標と具体的な施策の方向性を分野横断的に提示します。

② 大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略の期間

国の総合戦略を踏まえるとともに、大津町振興総合計画との整合を図るため、令和8年度(2026年度)から令和11年度(2029年度)までを大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略の期間とし、まち・ひと・しごと創生の取組を推進します。

③ 第7次大津町振興総合計画との関係

まち・ひと・しごと創生総合戦略は、分野横断的な取組が多く、総合計画に位置づけられる長期スパンでのまちづくりと共通する考え方を有している特徴があります。そこで、国の方針を踏まえ、町民にとって分かりやすく、より明確な進行管理を実現するとともに、両者の策定や成果検証にかかる事務の効率化を実現することで効果的な取組の推進に注力することも目的として、第7次大津町振興総合計画に統合し、一体的に取組を推進することとします。

④ 第3期大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略のビジョン

「第7次大津町振興総合計画」において本町の将来ビジョンとして掲げられる「今も未来もみんなが幸せであり続けられるまち 大津」は、町民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができるまちの実現、まちの未来を担う個性豊かで多様なひとの確保、魅力ある多様なしごとの創出の3つの観点からも目指すべき将来ビジョンです。そのため、「第3期大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも、「今も未来もみんなが幸せであり続けられるまち 大津」の実現に向けて、目指すべき目標と具体的な施策の方向性を分野横断的に提示し、取組を推進します。

第2章 取組の方向性

「第3期大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、町民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができるまちの実現、まちの未来を担う個性豊かで多様なひとの確保、魅力ある多様なしごとの創出の3つの観点を踏まえて、以下の5つの基本目標を掲げた上で、基本目標ごとの数値目標を設定し、効果的な施策の推進を図ります。

基本目標ごとの具体的な施策は、「第7次大津町振興総合計画」の基本施策に包含されていることから、各基本目標と基本施策との関連性は、22～23ページにおいて整理して掲載した上で、「第7次大津町振興総合計画」における目標指標のうち、特に基本目標と関連が深いと考えられるものを数値目標として設定することとします。

基本目標1 「おおづ」で働くを支える

本町に住み続け、豊かな生活を実現するためには、働く環境の充実が必要不可欠です。そのため、多様な企業の誘致の推進等をはじめとして農業、工業、商業の全ての分野における産業の活性化を実現し、全ての人々がそれぞれの希望を実現し能力を発揮することのできる多様な雇用環境を整備することで、誰もが安定した雇用と魅力的なキャリアを実現し、安心してやりがいを持ちながら働き続けられるまちを目指します。

数値目標	企業新規・増設立地協定数(累計)	令和4年度～令和7年度	令和8年度～令和11年度
		21件	21件

基本目標2 「おおづ」での結婚・出産・子育てを叶える

地域の活力の源泉は「ひと」であり、その基盤となる結婚・出産・子育てに対する支援に取り組む必要があります。若者や子育て世帯への支援の充実や地域全体で子どもを育てる環境づくりにより、結婚の希望を叶えるとともに、希望する子どもの数を希望どおり産み育てることのできるまちを実現します。また、学校・家庭・地域が一体となって、子どもの教育環境の充実に努め、地域の未来を担う子どもたちが夢や可能性をのびのびと伸ばすことのできるまちを目指します。

数値目標	「児童福祉・子育て支援の充実」に対する満足度	令和6年度	令和11年度
		58.3ポイント	71.0ポイント

基本目標3 「おおづ」を住みやすいまちにする

本町が住みやすいまちとなるためには、安心して豊かな生活を実現することが必要不可欠です。まずは、住みやすさの基盤として、災害の頻発化・激甚化や地域の高齢化の進展、住民ニーズの多様化等を踏まえて、いつまでも町内の希望する地域で誰もが安心・安全に暮らすことのできるまちを実現しなければなりません。その上で、本町の魅力である豊かな自然環境や文化を保全しつつ、肥後大津駅周辺のまちづくりや空港アクセス鉄道中間駅周辺の新たなエリア開発や町中心部と各地域をつなぐ交通体系の整備等を進めることにより、調和のとれたまちの発展を実現し、いつまでも豊かに暮らすことのできるまちを目指します。

数値目標	買い物に不便を感じている人の割合	令和6年度	令和11年度
		31.5%	28.0%
数値目標	「道路網の充実」に対する満足度	令和6年度	令和11年度
		36.0ポイント	42.5ポイント

基本目標4 「おおづ」に新しい人のつながりを創る

将来的に本町の人口が減少局面を迎える事態は避けることのできない現実として迫っています。こうした中、新しい人のつながりを創出し、町外からも本町を応援し、本町の将来を担う個性豊かで多様な人材を増やしていく必要があります。そのため、「現代の宿場町」として、スポーツのまちやバイクのまちをはじめとした本町の強みを活かし、より多くの人々が本町を知り、体験することのできるまちを実現し、本町とのつながりのきっかけを創出することで、本町との継続的かつ多様な関わり方が生まれるまちを目指します。

数値目標	宿泊者数	令和6年度	令和11年度
		301,608人	540,000人
数値目標	肥後おおづ観光協会 SNS発信数／フォロワー数	令和6年度	令和11年度
		SNS発信数105回 フォロワー数3,037人	SNS発信数120回 フォロワー数8,000人

基本目標5 「おおづ」でデジタルの力を活かす

地域の活力を維持し、生活の快適性や利便性を向上させるためには、デジタルの力を積極的に活用することが求められます。そのため、行政だけでなく、民間事業者も含めて、デジタルの力を活用した付加価値の高いサービスを創出するとともに、デジタルの力によって人の持つ能力や可能性を最大化することのできるよう、幅広い取組を推進し、どの地域でも誰もが便利で快適に暮らし続けることのできるまちを目指します。

数値目標	行政手続きのオンライン可能件数	令和6年度	令和11年度
		18件	68件
数値目標	DX関連セミナー受講者数	令和6年度	令和11年度
		20人	30人